

## 用具検査マニュアル

用具検査長及び用具検査ジュリーは、選手に対して不利益を被らない平等な検査を執行する為に、検査方法を熟知し、用具検査員に対し指導監視を行わなければならない。よって、例え検査自体の実施を自らが行わなくとも、正確な情報を有し、またこれを大会全般にわたって執り行われる様、行動しなければならない。

平成 28 年度連盟兼関東支部競技審判長 岩崎一徳  
平成 28 年度 関西支部競技審判長 蛭田裕之

大会中の学連員の業務として重要な、用具検査のマニュアルとして、本書は存在いたします。射撃のルール、特に用具検査のルールは、一般人の感覚からすると少々ずれている場合も多々ございます（バットプレートの深さなど）。

トラブルを避けるためにも、各学連員は、用具検査に入る前に必ず以下のマニュアルを読んでください。本書は、あくまでも学連に入りたての二年生を対象としております。学連の3年、4年生はルールブック（競技規則集）を読み込み、更なるブラッシュアップを狙ってください。

なお、2015年度からは、全国の用具検査が関東方式に統一されることになり、本書は関東方式を解説しております。

### まず最初に

まず、検査以前に、常に意識しなくてはならない事として…

#### その1 常に射手の銃器安全管理に目を配る事

- ・ラッチ、ボルトの開放がなされているか
- ・銃口を人の方向に向けて持ったりしていないか
- ・セイフティフラッグをしっかりとつけているか
- ・銃を放置して検査会場から離れたりしていないか
- ・手伝いの者に銃を持たせたりしていないか

もし上の項目の一つでもあてはまる現場を見かけたら、臆せず注意を行って下さい。そうする義務と権利が学連員にはあります。

#### その2 分からないことがあったら、自分で判断せず、学連の上級生に質問する

用具検査において、規定違反の選手が用具検査を通過してしまうと、取り返しのつかないことが生じかねません。そのようなことを避けるため、用具検査についてわからないことがあったら学連の上級生に質問してみましょう。

## **その3 あくまでも選手のためを想って行動する**

学連員というのは、あくまでも選手がルールに違反せずスムーズに競技を行うために存在します。「ルール違反を見つけ失格にさせる」というのは、最終的な手段であって、学連員は、まず第一に、ルール違反の予防に努めなければなりません。ですから、用具検査に携わる者は、検査項目ではない部分についても、検査を受けに来た選手の用具がルールに違反していないかを調査し、選手が失格になることを未然に防ぐ努力をしてください。

### **目次**

本マニュアルは、以下のような流れで扱っていきます。

#### **1 用具検査**

##### **1-1 用具検査とは**

##### **1-2 用具検査に携わるメンバー**

#### **2 2種類の用具検査**

##### **2-1 競技前の用具検査**

##### **2-2 フォローアップ用具検査とファイナル用具検査**

#### **3 用具のルール**

##### **3-1 エアライフルについて**

##### **3-2 スモールボアライフルについて**

##### **3-3 その他の用具について**

##### **3-4 服装について**

# 1 用具検査

## 1-1 用具検査とは

用具検査とは、選手が競技に用いる用具がルールに違反していないかを調べるプロセスのことです。

用具検査には、選手が競技を行う前に必ず受ける用具検査、競技の後にランダムで選ばれた選手が受けるフォローアップ用具検査、ファイナルに出場する選手が必ず受けるファイナル用具検査があります。なお、フォローアップ用具検査はファイナル用具検査と検査内容が一緒です。したがって、用具検査は2種類あるといえます。フォローアップ用具検査を受けてファイナルに出場する選手はファイナル用具検査を受ける必要はありませんが、フォローアップ用具検査を受けずにファイナルに出場する選手はファイナル用具検査を受ける必要がございます。

## 1-2 用具検査に携わるメンバーとその仕事内容

### ・用具検査ジュリー（四年生）

赤バッヂ（本部公認）を持っている人が担当します。常に用具検査場に待機し、主に用具検査におけるトラブルに対処します。

用具検査における銃器、服装、用具類の検査が適正に行われているかを監督し、用具検査長に適切な指示を与えます。

全てが基準にクリアだと判断した場合にのみ検査用紙に最後のサインを入れ、参加シールを手渡します。

明らかな規則違反についてはただちに改めさせ、再度規則違反をしたときは、競技規則により処置をする必要があります。

用具検査ジュリーが用具検査最後の砦。検査用紙の記入漏れがないか、射手が安全管理をちゃんとしているかをしっかりと確認した上で参加シールを渡すようにする事が大切です。毎大会用検ジュリーのチェック漏れ、シールの渡し忘れが発生しています。この場合、用検ジュリーのミスが選手の大きな不利益に繋がります。確実にチェック等を行うようお願いいたします。

### ・用具検査長（三年生）

用具検査長は、用具検査会場の指揮を行い、検査表のチェックを行います。

用具検査を受けに来た選手に問題がなければ、オーダー表（コントロールシート）にチェックをつけます。

### <仕事の手順>

- 1、用具検査を終えた射手から用具検査用紙を受け取り、チェックを行う。
- 2、用紙に問題があれば状況確認を行い、射手の落ち度が無いようであればその場で修正し、後で検査係にミスについて指導をする。
- 3、ジュリーのチェックを受けるよう指示し、用具検査用紙を渡す。

### ・用具検査係（二年生 or 一回生）

その名の通り大会に参加する射手の用具を検査し、全ての射手が平等な条件で大会に参加できるようにする大事な仕事です。

#### ＜仕事の手順＞

- 1、用具検査ノートに記入する。
  - 2、射手が来たら、用具検査表を受け取り次項の手引きに沿って検査を行う。
  - 3、全てのチェックが終わったら用具検査表を射手に返却し、検査長の確認を受けるよう促す。
- ※検査中、記入の間違いなどがあつたら、その場で射手に書き直させて下さい。  
 ※三色（受付）から随時、射座変更届や棄権届が届けられます。受け取ったら直ちに、手元のオーダー表（コントロールシート）にその変更を反映させて下さい。

### ・標的検査係（二年生 or 一回生）

競技で用いられる標的に不備がないかをチェックします。紙の標的が用いられる大会の時のみ登場します。

#### ＜仕事の手順＞

- 1、各校の人が標的を持ってきたらチェック開始。
  - ・標的検査用紙が一緒に出されているか。
  - ・標的の枚数が適正で、連番が揃っているかどうか。
  - ・水性ペンではなく、きちんと油性ペンで書かれているかどうか。
  - ・全ての標的に射群、射座が規定の数字通りきれいに書かれているかどうか。  
→読めるが規定通りの数字じゃない場合は一言注意し、判別できない・他の文字と見間違える可能性がある場合は指摘して書き直させる。
  - ・書き直し、訂正をした字に対して正しい処置が行われているかどうか。  
→訂正する際は、失敗した文字を横二重線できれいに消し、その横に新たに書き込んだ上で、**その両方にかかるように訂正印を押す**。これが出来ていない箇所については指摘して再度訂正印を押させる。
  - ・**的の補強がしっかり行っているか**  
→**しっかり行っていないと重ね撃ちなどの的トラブルの原因になるのでしっかりチェックしてください**  
※余裕があつたら、標的に不審な点がないかどうかもチェック。
- 2、以上が全てクリアしたら  
本射1枚目にSRAJ印を押す。  
※長瀬のSB的のみ、連番が崩れていたら標的と標的の間に割り印を。

## ・硬さ検査係（主に二年生）

フォローアップ用具検査とファイナル用具検査を受けに来た選手のコートとズボンの硬さを測ります。また、自分のコートとズボンがルールに違反していないか競技前に検査を任意に受けた人がいたら、測ってあげてください。

硬さなどの基準については「3 用具に関するルール」を見てください。



### <セッティング>

- 1、硬さゲージは設置する土台が平行でなければなりません。板の下に標的を置いて、硬さゲージと板の高さが平行になるようにしてください。また、机が揺れてもいけないので揺れない位置におく、もしくは机の足の下にダンボールを敷くなどして、調整してください。測定の際は絶対に机の上に他のものを載せないで下さい。
- 2、機械に付いている青いテープを外す。
- 3、レバーについているねじをはずし、機械にレバーを取り付ける。取り付けたらねじを締める。（取り付けの際は、慎重に取り付けてください。）

### <硬さゲージの使用法>

- 1、機械のパネル付近にあるレバーを動かし、機械の計測部分を上に動かす。
- 2、コートを機械の測定部分の上におく。
- 3、1で動かしたレバーを最後まで元に戻す。（この時計測を始める前に数秒待つ）
- 4、リセットボタンを押し、数字が0になった事を確認する。

5、機械後部についているレバーを最後まで動かし（丸板を下げる方に動かす）、パネルに表示された数字を確認する。3.0以上なら合格となる。2.9や2.8という微妙な数字が出た場合、コートを動かさずにストップウォッチや時計で時間を計り、**最大で1分間待ちましょう（ISSF EQUIPMENT CONTROL GUIDE 3.6）**。時間がたつと3.0以上になる可能性があります。記入用紙に硬さの数字を記入し、不合格であることを通知してあげてください。なお、コートは検査部位のどの部分を測っても3.0以上でなければならないため、**フォローアップ時における再検査は不可能です。但し、しわなど、図った際の状態により、稀に1.6や2.3といった極端な数字が出る場合があります。この場合は一分待っても3.0にならないければ、場所を変えず、その計測位置でもう一度検査をしてみてください。なお、これは学連内でのルールとなります。**（学生主

体という技術知識共に未発達な環境における偶発的なアクシデントの発生と、射手に不利な検査を行うことを防ぐための救済措置であり、これにより射手が不利になるという事はない為、学連内のルールとして定めることとする。但し、再検査における計測位置の変更は認められず、また、もう一度検査を行う場合は、必ず用具検査長及びジュリー立ち合いの下で行うようにしてください。)

また、ファイナル前銃検や自主検査の場合、どうしても固さ検査を通らなかった場合はコート<sup>①</sup>を切り刻む、裏地を剥ぎ取るなどして、恒久的に素材が変化するような措置を取らせたいので再検査をしてあげてください。(揉む・車で踏む・加熱するなどは一時的に数値が変化することはありますが、これらによって一時的な細工を加えることは許されていません。(7.5.1.5) ※改定によりコートの切り込みが不可能になる可能性もあり。

## ・厚さ検査係（主に二回生）

フォローアップ用具検査とファイナル用具検査を受けに来た選手のコートとズボンの厚さを測ります。また、自分のコートとズボンがルールに違反していないか競技前に検査を任意に受けたい人がいたら、測ってあげてください。

厚さなどの基準については「3 用具に関するルール」をご覧ください。

### 1. デジタル式検査機

現在、複数の支部に既にデジタル式厚さ検査機が導入されています。日ラの方針として、このデジタル式検査機がこれからの主流になるため、アナログ式のものと比較して重要なものとなることが予想されます。以下にその使用方法を記します。大変高価な機器のため、可能な限り丁寧に取り扱って下さい。



#### <セッティング>

1. まず、厚さ検査機を硬さ検査機同様、平行な机の上にセットします。
2. レバーを穴に差し込み、固定具で固定します。
3. レバーを上げ、機械に付いている白いキャップを外します。

4. 一度レバーを下ろしてリセットボタンを押し、数値を 0.0 にします。ここでリセットをしておかないと正しい測定結果が出ませんので、注意して下さい。
5. この時点において、校正機器でその厚さ検査機が正しいかどうかを検査します。3 枚のプレートの厚さが正しく表示されているかを以て、判断基準とします。



### ＜使用方法＞

1. 先ほどと同様、測定前にレバーを下ろしてリセットし、数値を 0.0 にします。
2. レバーを上げ、検査するものを挟みます。
3. 丁寧にレバーを下ろします。その際は、縫い目等の分厚くなることが明白である部分は避けて下さい。ルールで定められている数値を上回ってしまった場合の対処は硬さ検査の際と凡そ同様です。ただし、硬さ検査と違い、一分間という時間の目安はありません。

※デジタル式検査機が導入されて測定の精度が向上したことにより、それまでのアナログ式の時代に検査する人間によっては合格となっていたコートでも不合格となるということがまま発生するようになっていきます。日ラの方針としては、校正機器の無い射場においては測定結果の正確さを担保できないため、本年度はコート及びズボン（ベルトを使用していない選手のウェストバンドは除く）は 2.6 でも警告のみで失格とはしないということになっています。しかし、能勢射場はじめ、校正機器があり、機器の正確さが担保される射場では、原則として ISSF ルールを優先し、2.6 以上の数値が出てしまった場合は失格とします。

## 2. アナログ式検査機

デジタル式検査機の普及に伴いめっきり出番が減りましたが、時としてアナログ式検査機を用いる場面があります。以下に、検査の手順を記します。

### ＜使用方法＞

- i) まず何も挟んでいない状態でレバーを手前に引きます

- ii) この状態で短針が 0 を示すように目盛を動かします
- iii) レバーを戻し、厚さを測りたいものをはさんでから、再びレバーを手前に引きます
- iv) 短針は、「0」から次の「0」まで動くと 10mm になります＝1mm 単位で表示
- v) 長針は、「0」から次の「0」まで動くと 1mm になります＝0.1mm 単位で表示
- vi) 長針が 10 目盛り分動くと、短針が 1 目盛り分動きます。
- vii) 短針と長針の示す値の合計が、対象の厚さになります。

例：短針が 2、長針が 4→2.4mm

(正確に言えば、長針は元の位置から 24 目盛り分動いている事になり、短針は 2 と 3 の間を指しています)

※本来、長針と短針は一致するはずなのですが、多くの厚さ検査器は長針と短針がずれています。

従って、長針と短針を同時に 0 に合わせる事は出来ません。

なので、何も挟んでいない状態で閉じた時に長針が指す値を「0」とみなします。

例：短針を 0 に合わせた時に長針が「4」→「4」を「0」とみなします。

対象を測定した時、長針が 6 を指した場合、4 から 6 まで動いたので、長針の示す値は「0.2mm」。

対象を測定した時、長針が 2 を指した場合、4 から (次の) 2 まで動いたので、長針の示す値は「0.8mm」。

#### ・注意事項

使用しない時は、ばねの疲労を防ぐため厚さ検査器を測る時の状態のままにしないように注意して下さい。

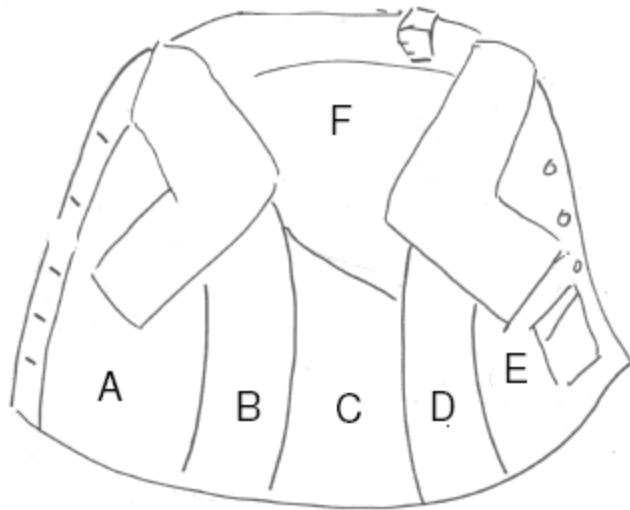
精密機器で壊れやすいので、丁寧に開閉するように心がけて下さい。

使用しているうちに、初期位置の目盛は動くものです。時折短針の目盛りが 0 にあっている事を確認して下さい。

## <仕事の手順>

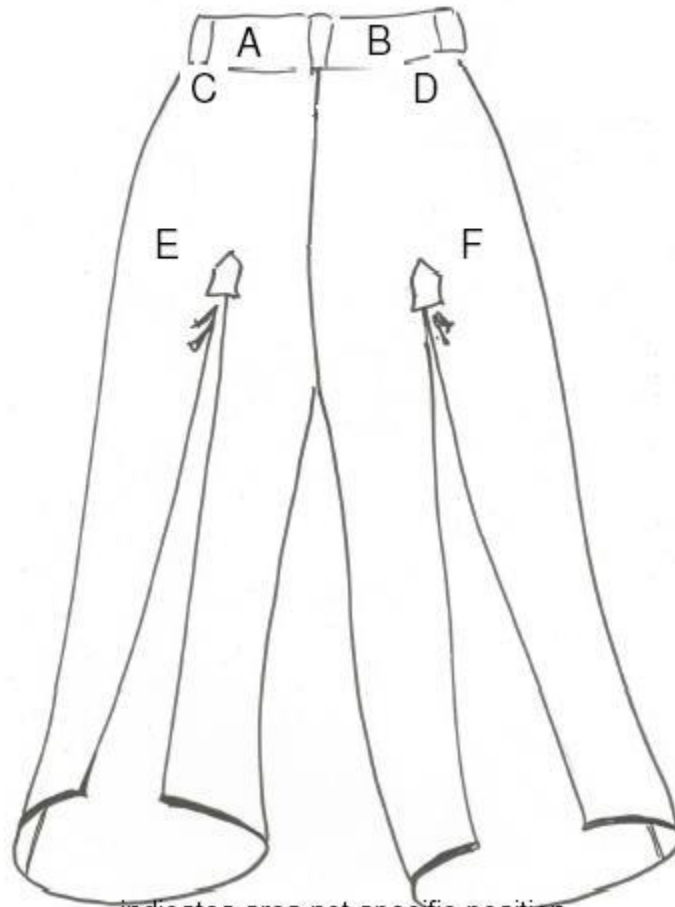


measured from outside



indicates area not specific position

measured from inside



Indicates area not specific position

ジャケットの硬さを計測する。調べる個所は上の図の通りである。この検査が必要なファイナルとフォローアップの検査用紙には図と同じくアルファベットが記載されているため、適応した部分に計測した数値を記載すること。（なお、上段がジャケットで、下段がズボンである）

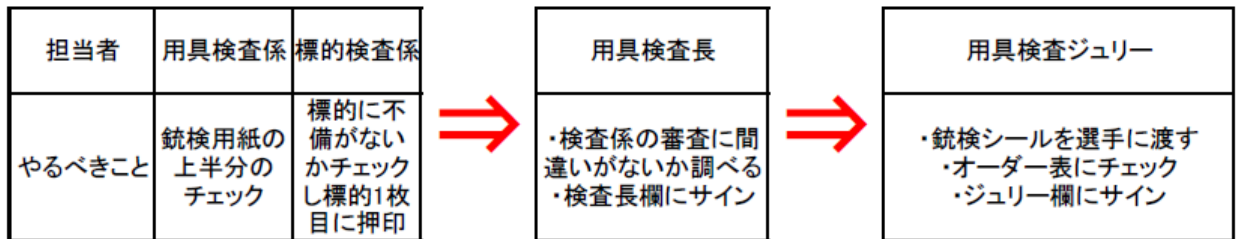
ジャケットは外側を上面にして計測し、ズボンは裏面を上面として計測する。また、計測中にズボンが上下しないようにズボンは支えながら計測すること。この際は、ズボンを折り曲げるなどして、ズボンが上下しない工夫をして下さい。

しわのある部分、縫い合わせのある部分などはどのコートでも不合格となってしまうので、その部位は避けて計測すること

## 2 2種類の用具検査

### 2-1 競技前の用具検査

競技前の用具検査の手順としては、以下のようになります。



次に、用具検査係、標的検査係、用具検査長、用具検査 Jury の仕事内容を記しておきます。ルールにつきましては、後の「3 用具に関するルール」を参照してください。

1	検査係	→	選手
		「おはようございます」「ご苦労様です」	
		挨拶は大事。	

2	検査係	→
		「銃をここに置き、標的・用具検査用紙・日ラ 会員証等を出して下さい」
		秤を示しながら。

3		←	射手
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 火薬許可証 (SB)</li> <li>・ 所持許可証</li> <li>・ 日ラ会員証</li> <li>・ 射手手帳</li> </ul>	
		を渡す。	

4	検査係	→	射手
		「氏名・学校・射群・射座をお願いします」	
	検査用紙を見ながら。		
		←	
		「学連太郎・学連大学・1-20です」	
	検査係	<p>手元のオーダー表に照らし合わせて、問題なければオーダー表にチェックを入れる。</p> <p>続けて、所持許可証番号が検査用紙に正しく記入されているかもチェックする。</p>	

5	検査係	→	射手
		「銃を見ながら銃番号を読み上げて下さい」	
		←	
		「A 1 2 3 4 5 6です」	
	検査係	検査用紙と所持許可証を見比べながら確認する。	

6	検査係	続いて、以下の内容を検査する。
		日ラ会員証ある？
		・なければ、ジュリーに報告。
		セフティフラッグある？
		・なければ、選手に速やかにつけさせる。
		射座に持ち込む弾数は？（SBのみ）
		・弾数を用具検査用紙に書き込む。（ARの場合は横線）
		認定シールはある？
		・なければ、ジュリーに報告。
		バットプレートの深さは大丈夫？
		・ARなら一円玉が通らないなら問題ない。（ゴムの付いたバットプレートはゴムの上から測ること。）SBなら、25mm以内の深さなら問題ない。
		バットフックの長さを計測する。（縦は153mm・カーブの外周は178mm）
火薬譲渡証がある？（SBのみ）		
・期限切れは問題なし。なければジュリーに報告。		
重量は許容範囲内？		
（AR）共通5.5kg （SB）男子8kg 女子6.5kg 以内		

7	検査係	→
		「インナーは何枚ですか？」

		<p>二枚までなら基本的に可。(下着は含まない)三枚と言ってきたら、一枚脱いでもらう。どうしてもと言いついたら、ジュリーに相談する。</p>
--	--	--

7	検査係	<p>ARのフロントサイトのチェック</p> <p>ARのフロントサイトが銃口より前に出ていなければ問題ない。</p>
---	-----	---

※検査方法として、銃口に定規をあて、上にスライドさせる。この際に定規がフロントサイトにぶつかれば、銃口より前に出ているとわかる。

8	検査係	→
		「それではコートとズボンをみせてください」
		前あわせを確認。
		※ボタンホールの外側の端と、ボタンの中心線が7センチ以上重ねられる事。
		※Pではズボンを使うかどうか確認する。P60での使用は禁止となっているため、3姿勢で確認。

9	検査係	→
		「ベルトやサスペンダーは使いますか」
		※同時に両方を用いることはできない。

10	検査係	→
		「グローブを見せて下さい」
		手首を強く締め付けるような構造になっていないかを見る

11	検査係	→
		「シューズを見せて下さい」
		差金を使って、靴底のサイズを測り許容範囲かどうかを調べる。
		※P60での射撃シューズの使用は禁止
		※革靴やスポーツシューズなどは、基本的に可。

12	検査係	目隠し板のチェック
		許容範囲内かを調べる。(100mm × 30mm)

検査係	→
	「お疲れ様でした。この後、検査長のチェックを受けて下さい」

## ＜トラブル対応＞

### 1、忘れ物

#### **所持許可証**

言語道断。ジュリーに報告。当然出場不可能&競技役員からの指導。

#### **火薬許可証 (SB)**

論外。ジュリーに報告。出場不可能&競技役員からの指導。  
期限切れは問題なし。

#### **日ラ会員証**

ジュリーに報告。出場不可能&競技役員からの指導。

### 2、これはどうなの？

測定項目	区分	合格値	測定方法、使用器具
銃器重量	AR	5.5kg 以下	秤
	SB 男子	8.0kg 以下	
	SB 女子	6.5kg 以下	
バットプレート	AR	20mm 以下	定規+1円玉 など
	SB	25mm 以下	計測シート など
フロントサイト(AR のみ)		銃口より前にでていないこと	定規
ピistol引き金		(500g 以上)	専用の錘
ピistol大きさ		(420mm × 200mm × 50mm 以内)	基準箱
着衣		動きを固定したり過度に制限する服装でないこと (枚数無制限)	※下着類(パンツ・ブラ) は含めない
テーピング		動きを固定したり過度に制限するテーピングをしていないこと	※タイツは関節を過度に固定しない場合は認める
ジャケット	固さ	3.0 以上	固さ検査器(外側から)
	厚さ	一重 2.5mm、二重 5.0mm 以下	厚さ検査器
	前合わせ	(70mm 以上 100mm 以下)	前合わせ検査器
	腕伸ばし	まっすぐに手を伸ばせること	実際にやってもらう
	サイドパネル	据銃姿勢時の左肘の先端から上 70mm 下 20mm 以内のゾーンに縫い目がない事	実際にやってもらう+定規
ズボン	固さ	3.0 以上	固さ検査器(内側から)
	厚さ	一重 2.5mm、二重 5.0mm 以下 (ウェストバンドは 2.5、ベルト不使用時 3.5 以下)	厚さ検査器
	ベルトループ	7 本以下	
		幅 20mm 以下 間隔 80mm 以上	定規 定規
シューズ	固さ	(15Nm の負荷で 22.5 度以上)	靴の固さ検査器
	外周	5mm 以内(靴の外形から)	定規(垂直にあてる)
グローブ	厚さ	12mm 以下	厚さ検査器
スリング	幅	40mm 以下	定規
ベルト・サスペンダー	幅	40mm 以下	定規
	厚さ	3.0mm 以下	厚さ検査器
ヒールパッド	大きさ	20cm × 20cm 以内	定規
	厚さ	10mm 以下	厚さ検査器

失格事項

項目外

ニーリングロール	規格	長さ 250mm 以下、直径 180mm 以下	定規
	中身	形を固定するものが入っていないこと	手で曲げる
目かくし板	高さ	30mm 以下	定規
	長さ	100mm 以下(リアサイトの穴の中心から)	定規
フロントブラインダー	幅	30mm 以下	定規
サイドブラインダー	高さ	40mm 以下	定規
	付ける位置	額より前に出ない	実際にやってもらう+定規
		目線より下は 20mm 以内	実際にやってもらう+定規

- ・グローブが手首を締め付けるような構造になっている違反。他の物を持ってきてもらう。
- ・セーフティフラッグ  
セーフティフラッグの導入により、銃口カバーはしなくても良いことになった。  
セーフティフラッグがない場合は、他の射手に貸してもらう等試合中は、必ず付けることを徹底させる。  
また、新規定 (6.2.2.2) により、セフティプラグを使用しなくてはならなくなった。  
セフティフラッグ 1 1 は銃身長よりも長くなくてはならず、また蛍光オレンジまたは似たような色の素材でなくてはならない。
- ・コートの前あわせが規程に足りない or 多い  
ボタンの中心からボタンホールの外側までが 70mm 以上、かつ、ボタンの中心からジャケットの内側の端までが 10.0mm を越えないこと。  
違反の場合、ボタンの位置を付け替えるなどの対応をしてもらう。
- ・コートが利き腕用ではない  
右利き射手の場合、ポケットが右側にあるはずなのに左側にあるということ。  
違反なので別のものを持ってきてもらう。
- ・コートのボタンが無い  
射手が有利になる事はないので問題なし。
- ・ズボンのホックがない  
射手の有利になる事はないので問題なし。  
ちなみに、ズボンをとめる方法として、ベルクロとほか (ホック等) を併用することは出来ないので注意。
- ・ベルクロ (=マジックテープ) が股下よりも下に伸びている  
違反。股下より伸びた部分を完全に縫い付けるか、ガムテープ等をベルクロの上に貼るなどすればオーケー。その旨を検査用紙に記入。
- ・コートやズボンに穴が空いている・切り刻まれている  
基本的に射手に有利になることがないので認められている。



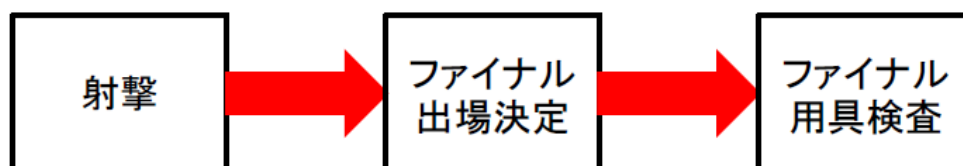
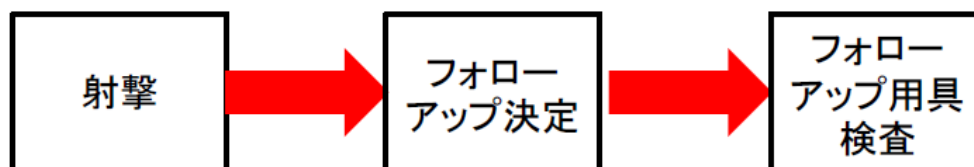
検査を進める中で、このマニュアルだけでは対応しきれないようなケースに遭遇する場合もあると思います。その場合は、迷わずジュリーに相談して下さい。ジュリーは、十分なルールな知識を持って、選手に対して公正な裁定を下すことを心がけて下さい。

後ろに行列ができていたり、射手から強い調子で迫られたりすると、つい焦って適当に判断をしてしまいがちですが、それは引いてみれば他の射手に対する不公平になります。

尚、大会で使用する用具は全て用具検査を通すのが原則です。チェック項目以外の物品もあるかどうかぐらいは気を配ってください。


## 2-2 フォローアップ用具検査とファイナル用具検査

フォローアップ検査とファイナル用具検査では、以下のような流れとなります。



検査内容については、多岐にわたります。

### 用具検査係の仕事

- ・認定シール→あるか（あるなら✓）
- ・銃番号→許可証の番号と銃器の番号が一致しているか（一致しているなら✓）
- ・重量→銃器が重量をオーバーしていないか。ARは5.5kg、SBは男子8.0kg、女子6.5kg。（オーバーしていないなら✓）
- ・フロントサイト（ARのみ）→銃口より前に出していないか（出していないなら✓）
- ・バットプレート→規定をオーバーしていないか。ARは20mm。SBは25mm。
- ・ピストル引き金とピストル大きさ→ライフルとは関係ないので、をつける。
- ・着衣→枚数を記入する。
- ・テーピング→しているなら「有」。していないなら「無」と記入。

- ・前合わせ→合わせることで、70mm 以上 100mm 以下の範囲で重なっているか（重なっているなら✓）
- ・腕伸ばし→ボタンを全て閉めた状態で腕がまっすぐに伸びるか（まっすぐ伸びるなら✓）
- ・サイドパネル→射撃に用いない方の肘がサイドパネルにあたっていないか（あたっていないなら✓）
- ・ベルトループ→幅が 20mm 以内でベルトループ間が 80mm 以内か（その数値を記入）
- ・シューズ
  - 専門の機械で踵に 15N の力を加えた時に 22.5 度以上曲がるか(曲がるなら✓)
  - 靴の外周が 5mm 以内か（5mm 以内なら✓）
- ・ベルト→幅 40mm、厚さ 3mm 以内か（その数値を記入）
- ・サスペンダー→幅 40mm、厚さ 3mm 以内か（その数値を記入）
- ・ヒールパッド→20cm×20cm 以内の大きさか（その数値を記入）
  - 10mm 以内の厚さか（その数値を記入）
- ・ニーリングロール→長さ 25cm、直径 18cm 以下か（その数値を記入）
- ・スリング→幅は最大 40mm か（数値を満たすなら OK）
- ・グローブ→どの部分においても、手のひらから手の甲までの厚さが 12mm 以内か（数値を満たすなら✓）
- ・目隠し版→30mm×100mm 以内か（その数値を記入）
- ・サイドブラインダー→高さが 40mm 以内か（その数値を記入）また、下端が目を中心線より 20mm をこえて下げてはならない。
- ・フロントブラインダー→横幅 30mm を超えていないか調べる。

### 硬さ検査係の仕事

- ・ジャケットの固さ→上記のマニュアルに書かれたジャケットの各部位を調べ機械の数値で 3.0 以上であれば合格。
- ・ズボンの固さ→上記のマニュアルに書かれたズボンの両足を測定する。機械の数値で 3.0 以上であれば合格。

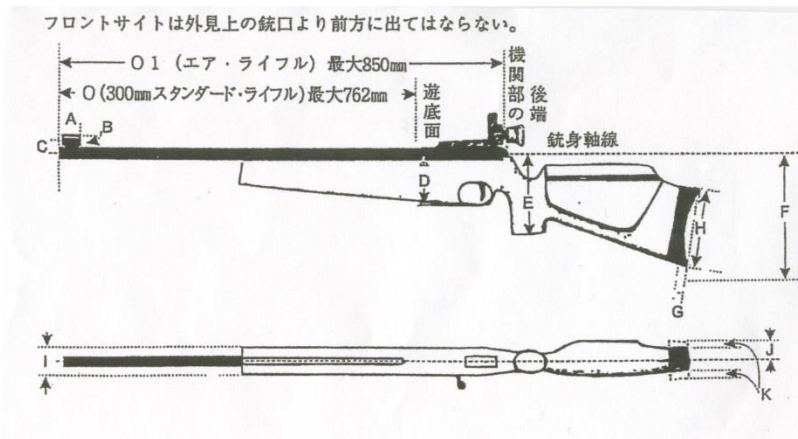
### 厚さ検査係の仕事

- ・ジャケットの厚さ→上記のマニュアルに書かれたジャケットの各部位を調べ機械の数値で 2.5 以下であれば合格。
- ・ズボンの厚さ→上記のマニュアルに書かれたズボンの各部位を測定する。機械の数値で 2.5 以下であれば合格。なお、ウエストバンドについては、ベルトを使用する選手は 2.5 以下、使用しない選手は 3.5 以下であればよい。
- ・グローブの厚さ→グローブ（内手袋も含む）の厚さを調べ、機械の数値で 12.0 以下であれば合格。
  - （ここから下は使用している選手のみ調べます）
  - ・ベルトの厚さ→ベルトの厚さを調べ、機械の数値で 3.0 以下であれば合格。
  - ・サスペンダーの厚さ→サスペンダーの厚さを調べ、機械の数値で 3.0 以下であれば合格。
  - ・ニーリング・ヒールパッドの厚さ→ヒールパッドの厚さを調べ、機械の数値で 10.0 以下であれば合格。

### 3 用具に関するルール

射撃に関するルールのうち、用具検査に関係するものを載せておきます。詳しくは、ルールブック(競技規則集 2015年版)を参照してください。以下では、エアライフル、スモールボアライフル、その他の用具、そして服装の4項目を取り扱います。

#### 3-1 エアライフルについて



エアライフルについては、数点、重要なルールがあります。

まず、エアライフルにおいては、銃口の先端より先にフロントリングが出てはなりません。「フロントサイトは外見上の銃口より前方に出てはならない(7.4.4)」とルールブックには記載されております。

このルールは、AR についてのみです。SB については、フロントサイトが銃口より前に出ていても何ら問題はないので注意しておいてください。

次に、バットプレートの深さは、20mm を超えてはなりません(7.4.4.1)。ちょうど、1円玉も20mmなので、バットプレートに定規を当てた時に、1円玉がバットプレートと定規の間を通るとルール違反になります。しかし、ここで注意が必要です。写真(下)にあるような、ゴムのついたエアライフルにおいては、ゴムの上から1円玉が通るかを調べてください。例年、数多くの学連員が間違えております。



三番目に、**サイトを含む最大重量（使用する場合ハンドストップも含む）は5.5kgです。**フォローアップ用具検査とファイナル用具検査に入る方は注意してください。

エアライフルの詳しい規定は以下のようになります。詳しい数字はともかく、こんな規定もあるんだ、くらいの感覚で、記憶の片隅にとどめておいてください。

#### 7.4.4.1

		エアライフル
A	フロントサイトチューブの長さ	50mm
B	フロントサイトチューブの外径	25mm
C	銃身の真上、またはオフセットされたフロントサイトリングの中心、ポストサイトの先端から銃身軸線までの距離。 (右利きの射手が左眼で照準する場合を除く)	60mm
D	フォアエンドの高さ	90mm
E	ピストルグリップの下端まで	160mm
F	<b>バットプレートを最も下げた状態でのストックまたはバットプレート</b> <b>の下端まで</b>	<b>220mm</b>
G	<b>バットプレートの深さ</b>	<b>20mm</b>
H	バットプレートの縦の長さ	153mm
I	フォアエンドの幅	60mm
J	銃身軸線よりみたチークピースの幅	40mm
K	銃床後部の中心線から左または右へバットプレートをオフセットする際の制限	15mm
L	引き金の重さ	制限なし
M	<b>サイトを含む最大重量(使用する場合ハンドストップも含む)</b>	<b>5.5kg</b>
N	<b>フロントサイトは外見上重厚から前方に出てはならない</b>	<b>出てはならない</b>
O1	エアライフルの装置の全長	850mm

※Cの銃身中央軸は、銃口の上端の意味であると解釈する。

※Gは1円玉の大きさと同じ

#### ※その他

2013年度版規則集第2巻7.4.2.6.b)には「ウエイトはストックの許容寸法内に入らなければならない。」と書かれています。しかしストックの許容寸法が記されている同巻7.4.4.1にはストック後端の数値による許容寸法が記載されておらず、どこまでがストックの定義にあたるのかという問題が生じていました。これに関して、

2016/02/20での理事会において、「ストックの定義は7.4.4.1に記されているイラストも含める」という見解が示されました。これによってストックの定義にはバットプレートも含まれることとなりました。しかし、バットプレート上下それぞれ、該当のウエイトに近いほうの後端より、ウエイトを超えることは許されません。また、それ以外の部分においても、ウエイトが体の一部を支える可能性のある部分への使用や、ウエイトとしての利用方法以外に射手に利益を与える可能性のある物は射場役員より禁止を命じることがあります。用具検査員もこの点に留意して銃をチェックして下さい。

### 3-2 50mライフル

50mライフルのルールのうち、用具検査に関係する規定としては以下のようなものがあげられます。

- ・フリーライフル規格の為、あらゆるセッティングが可能で、競技中のセッティング変更並びに、銃器変更も許可される。ただし、パームレスト、ハンドストップを含む全てのアクセサリ類を装着した上で、重量が、男子では8kg、女子では6.5kgを超えてはならない。(7.4.5) 男子と女子で許容される重量が異なるので注意してください。

- ・ストックやバックストックの下面に装着するウエイトはチークピースの幅を超えて水平方向に張り出してはならない。ウエイトはバットプレートの最新部を通る垂線よりも後方へ張り出してはならない。

- ・ライフルのフォアエンドに装着するウエイトは銃身軸線から下方向に90mm以内、前方には機関部の後端から700mm以内まで張り出すことができる。(7.4.5)

なお、**パイポット(二脚)もウエイトに定義される為、注意する事。**

- ・銃身軸線に直交しバットプレートの上端と通る直線と、同じく銃身軸線に直交し(通常肩に当たるバットプレートの凹みの)最深部を通る直線との距離が25mm以内。バットプレートの肩との接触面に、円盤状の小さなラバーなどが(通常肩に接触する部分とみなせる程度に)多数ついているため最深部が明瞭でない場合、ラバーまでの距離を測定する(ラバーの隙間を最深部としては計測しない)。

特にSBのバットプレートは計測の方法上、本来は銃に装着されている状態が望ましいが、複数個所持している場合もありえるので、用具検査では装着されていなくともそのまま検査する。

装着されていない状態で計測する場合、バットプレートを計測用のシート上に線が重なるように置き、25mm以内の深さであるかを検査する。また、バットプレートのキャリアーが、銃に対してバットプレートが斜めにつくようなセッティングになっていないかを確認する。

SBのバットプレートは、  
伏射種目の用具検査に関してはPの状態で  
三姿勢種目の用具検査に関してはKの状態で

それぞれ検査を行う。ただし、同時に行う場合はKの状態のみの検査でよい。  
三姿勢種目においてバットプレートを複数個所持している場合、そのそれぞれについて検査を行う。

バットプレートを2つ使用する場合は、一方がKの状態であるかを選手に確認する。

(2つのバットプレートの組み合わせは、K+PとS、K+SとP、P+SとKのどれか。Sのセッティングは三姿勢種目のフォローアップで、Pのセッティングは伏射種目の用具検査及びフォローアップで、それぞれ計測するがKのセッティングを検査するタイミングが三姿勢種目の用具検査しかないため)

SBのバットプレートが

1個の場合

伏射種目：Pの状態であるかを本人に確認して検査する

三姿勢種目：Kの状態であるかを本人に確認して検査する

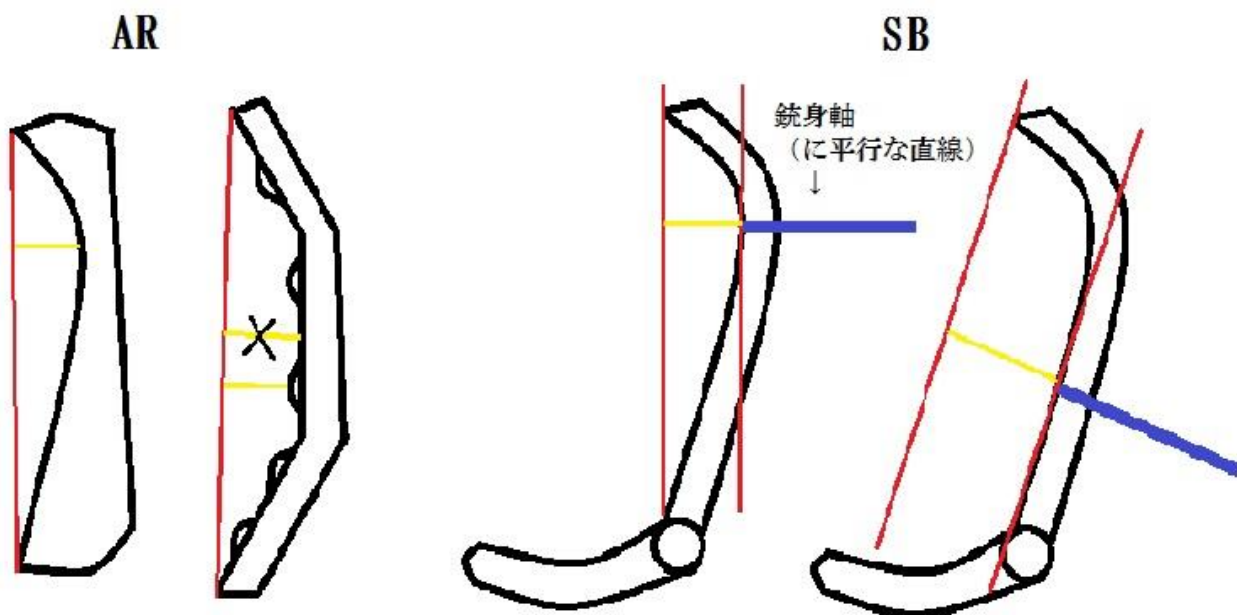
2個の場合（三姿勢種目のみ）

一方がKの状態であるかを本人に確認して、それぞれ検査する。

(もう一方のバットプレートがPの状態かSの状態かは問わない)

3個の場合（三姿勢種目のみ）

それぞれ検査する。



### 3-3 その他の用具

- ・サイト、目かくし板

矯正用レンズまたはスコープはライフルに取り付けてはならない。

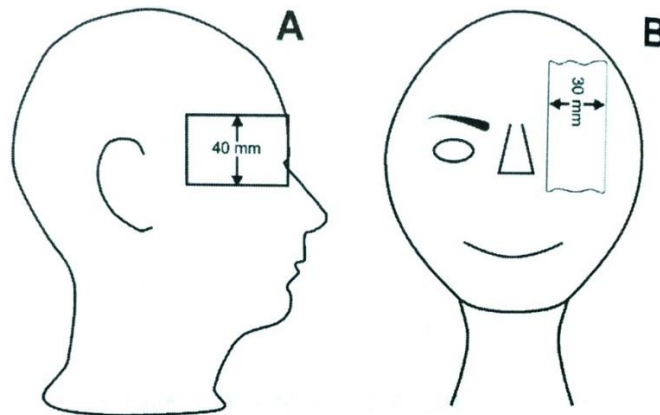
目かくし板をライフルまたはリアサイトに取り付けることはできる。目かくし板は高さ 30mm 以内 (A) で、リアサイトの穴の中心から照準に用いない眼の方向に 100mm 以内 (B) のものでなければならない。照準に用いる眼の側に目かくし板を使用することはできない。(7.4.1.5)

- ・サイドブラインダーとフロントブラインダー

帽子、キャップ、めがね枠またはヘッドバンドに取り付けるサイドブラインダー (片側または両側) は高さ 40mm を超えないものの使用が許される (A)。サイドブラインダーの前端は額の中心から伸ばされる直線を超えて前方に伸びてはならない。ブラインダーの下端は、目の中心線から下方 20mm を超えて下げてはならない。照準に使用しない眼を覆うフロントブラインダーは幅 30mm を超えないものの使用が許される (B)。

(6.7.8.4)

サイドブラインダーと目隠し版は、市販のものであってもルールに違反するものが見受けられますので、注意しましょう。



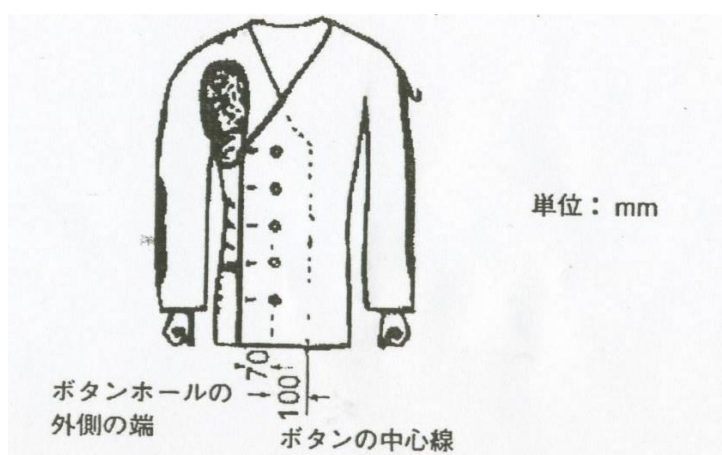
### 3-4 服装

全ての種目を通じて、射手一人に対して、射撃ジャケット、射撃ズボン、射撃靴の各々 1 組だけが、用具検査の上、使用を認められる。また、上記以外に射撃ズボン、射撃靴以外の一般のズボンや運動靴の使用は認められる。

ただし、一般のズボンとの併用は禁止。ジャージ等の薄手インナーのみ認められる。三姿勢競技において、立射・膝射で使用する射撃ズボンと射撃靴とは別に、伏射で一般のズボンとスニーカー等を使うことは可能である。

### 射撃ジャケット

- ・ジャケットの丈=手のこぶしの下部を超える長さになってはならない。(7.5.4.1)
- ・前合わせの検査=ボタンの中心からボタンホールの外側(ボタンが引っ掛っている側)の長さを基準とする。前合わせは 70mm より多く重ねる事ができなくてはならない。また、ボタンは 100mm より深い位置に取り付けてはならない。(7.5.4.2)
- ・ジャケットの袖=伏射及び膝射の際、スリングを付けた腕のジャケットの袖は手首より前に出てはならない。また、姿勢をとった時、手、あるいはグローブと銃のストックのフォアエンドとの間に袖を挟んではならない。(7.5.4.6)



	コート	靴	グローブ	下着
一重にして	2.5mm	4.0mm		2.5mm
二重にして	5.0mm			5.0mm
合計			12.0mm	

#### ・最大許容の厚み

一重で 2.5mm (7.5.2.1)

#### ・固さ基準

測定シリンダーが少なくとも 3.0mm 沈み込めば、その素材は合格である(7.5.2.2)

#### ・サイドパネル

ジャケットの横の部分(サイドパネル)には、立射姿勢でライフルを支える腕の肘の下に水平方向の縫い目を配置してはならない。

### 射撃ズボン

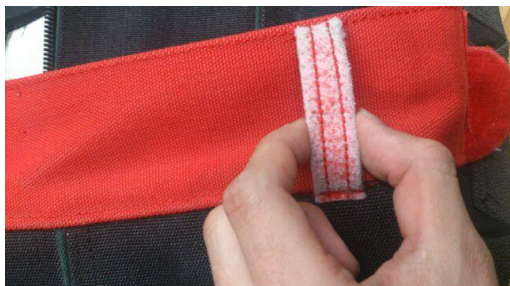
- ・ズボン股上の上端=骨盤の頂点より 50mm 以上高くなってはならない。
- ・通常のズボンの使用=人工的な支えを得ることの無いものであれば、可能。(同上)
- ・前開き部分=股より下方に伸びてはならない。(7.5.5.1)
- ・射撃ズボンと通常のズボンの併用は不可。ジャージ等の薄手インナーのみ可。



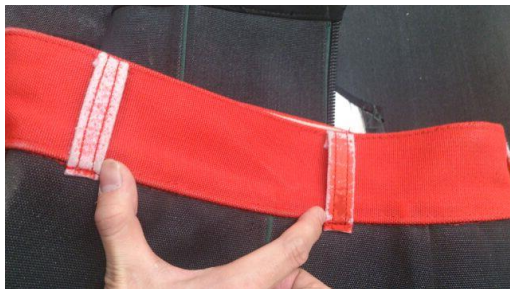
・お尻の部分にゴムがあってはならない。画像（下）のようなゴムがついていてはならない。



・ベルトループ（射撃用のベルトを通す輪）は最大七本までで、それぞれの幅が 20mm を超えてはならず、ベルトループ間は 80mm 以上あること(7.5.5.1)。ベルトループについても、市販品ですらルール違反のものが見受けられるので注意しましょう。



画像（上）の親指と人差し指の間がベルトループの幅です。

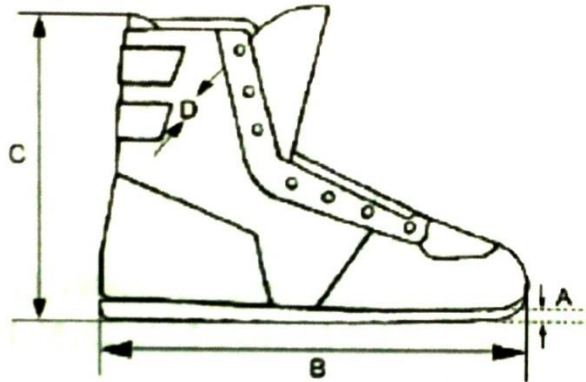


画像（上）の親指と人差し指の間がベルトループの間隔です。

## 射撃靴

・日常生活で用いるもの、軽いスポーツシューズは基本的にフリー。ただし、その仕様に疑問を生じさせるような靴や、射撃用として販売されるシューズについては、図の条件を越えないものが使用を許される。(7.5.3 7.5.3.6)

時として射撃靴のゴムを削ってない人がいますので、注意してください(靴の外周は5mm以下でなければならない)。



A	つま先部分の靴底の厚さの最大値	10mm
B	靴の全長：はいている者の足の大きさにあったもの	
C	靴の高さの最大値：Bの長さの2/3を超えない	
D	靴の上部の素材の厚さの最大値	4mm

靴底は靴の外形に沿ってカーブしていなければならない。また、どの部分においても靴の外形から5.0mmを超えて張り出すことはできない。つま先や踵は方形または平らに切りそろえることはできない。

また、射手は普通の歩き方(踵からつま先)をしなければならず、射撃シューズに関しては第5章「[靴底の柔軟性測定装置](#)」により靴底の軟らかさを見られる。

## 射撃グローブ

・厚み=縫い目と継ぎ目を除いたどここの場所でも、手のひらと甲の部分を重ねて測って12mmを越えてはならない。(7.5.6.1)

・留め具=手首部分には、いかなる紐または留め具(マジックテープも含む)も使用禁止。ただし、ゴムなどゆったりした伸縮材で搾るタイプの手首は可能。(7.5.6.2)

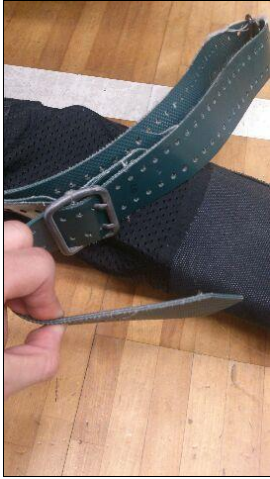
※インナー手袋(綿手袋等)は、グローブと一体と考える。当然、インナーも手首を締め付けるようなものや、長いものは使用できない。厚みも一緒に測る。

## 着衣(インナー)(射撃ジャケット、ズボンの内側に着る着衣)

・ジャケット、ズボンの内側に着る着衣は上下とも、各々全て重ねあわせて、その厚さが一重に測って2.5mm、二重に測って5.0mmを越えてはならない。実際の学連試合の用具検査では、明らかに規定を超えないと見受けられる着衣2枚までは検査免除としている。3枚を超えると、規定オーバーの可能性が高くなり、脱ぐか測定するかしなくてはならない。(7.5.7.1)

### スリング

- ・幅は最大 40mm。 (7.5.8.2)



### ニーリングロール

- ・膝射の際は円筒形のニーリングロールを1個だけ使用できる。大きさは最大限、長さ 25cm 直径 18cm 以内であること。(7.6.1.1)
- ・材質は柔らかく曲げることができるものでなければならない。ロールに型をつけるためにしぼりつけたり、その他の用具を使用してはならない。(7.5.8.5)
- ・画像(下)がニーリングロール。



### サスペンダー

- 幅 40mm、厚さ 3mm 以内のものを用いることができる。

### 射撃用のベルト

- 幅 40mm、厚さ 3mm 以内のものを用いることができる。

原本作成  
平成23年度 競技審判長 新井 拓馬

2014年度版スペシャルサンクス  
(現ルールに沿った内容への校正)  
平成26年度 総務 奥田 裕樹  
平成26年度 総務 東山 朋樹  
平成26年度 総務 皆川 芳  
平成26年度 総務 山田 智之

再編集  
平成26年度 競技審判長 阿部 智

2015年度版スペシャルサンクス  
(現ルールに沿った内容への校正)  
平成27年度 総務 戸井田 勇介  
平成27年度 総務 佐藤 佳都  
平成27年度 総務 清川 佑介

再編集  
平成27年度 総務幹事 山田 智之

編集監督  
平成27年度 競技審判長 皆川 芳

2015年度新改訂及び作成  
平成28年度 連盟副幹事長兼競技審判長 岩崎 一徳  
編集監督  
平成27年度 競技審判長 皆川 芳

2016年度改訂及び大幅加筆  
平成28年度 関西支部競技審判長 蛭田 裕之  
平成28年度 連盟副幹事長兼競技審判長 岩崎 一徳

次期以降の学連員へ  
私は好きに(改訂)した、君らも好きに(改訂)しろ。

最後に、過去の学連員方の功績に最大の敬意を